

第9回地域連携フォーラム・シンポジウム概要

1. 主催・後援

主催：文教大学大学院人間科学研究科

後援：越谷市・越谷市教育委員会

2. 日時・場所

日時：令和4年12月10日（土）13：00～16：00

場所：文教大学 越谷キャンパス（13号館13101教室）

3. テーマ

人生100年時代を生きるために ―心理学はどのように貢献できるのか―

4. 企画主旨

厚生労働省によると、2020（令和2）年の日本人の平均寿命は、男性が81.64歳（去年より+0.23歳）、女性が87.74歳（去年より+0.29歳）となり、ともに過去最高を更新した。また、2022年4月の年金制度改正法の施行により、公的年金の受給開始年齢が70歳から75歳に引き上げられ、老後も長く働き続ける環境が整いつつある。しかし、介護の必要がなく、健康的に日常生活を送れる期間を示す健康寿命は、男性が72.68歳、女性が75.38歳だったことが厚生労働省から発表されている。また、内閣府による国際調査によると、生きがい（喜びや楽しみ）を感じるかという質問に対して日本では「大変感じている」人が23.6%だった一方、生きがいを「大変感じている」人はアメリカでは57.4%、スウェーデンでは49.7%だった結果が示しているように、日本では老後に生きがいを感じる事が難しい現状が存在している。人生100年時代を迎えるに当たり、心身ともに健康であることの重要性はいつになく高まっているといえよう。

第9回地域連携フォーラム・シンポジウムでは、「人生100年時代を生きるために」必要なヒントを主に心理学の側面から考えたい。

5. シンポジウムの構成

(1)主催者挨拶 布柴 靖枝（文教大学大学院人間科学研究科長）

(2)司会・企画趣旨 岡田 斉（人間科学研究科臨床心理学専攻長）

(3)講演

①益田 勉（文教大学人間科学部心理学科教授）

人生100年時代を生きる―先人の生き方に学ぶ―

②萩原 裕子（人間科学部非常勤講師）
高齢者心理学の視点から人生 100 年時代を考える

③今野 義孝（文教大学名誉教授）
人生 100 年時代の生き方－臨床動作法を通して－

(4) 質疑応答・討論
司会・進行 岡田 斉（人間科学研究科臨床心理学専攻長）

(5) 閉会挨拶 布柴 靖枝（文教大学大学院人間科学研究科長）

報告書はこちら

https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/human-in/wp-content/uploads/2023/08/rcf_09_overview.pdf